

令和元年9月3日(火)

長野県の血栓回収療法が可能な医療機関と今後の脳卒中治療

長野県内の血栓回収療法の施行が可能な日本脳神経血管内治療学会専門医は現在14人です。全国では10万人当たりの専門医は1.5名であり、長野県内の専門医は全国平均の約半分です。現在、信州大学医学部附属病院脳血管内治療センターが中心となって専門医の育成を急いでおりますが、現在の全国平均に達するまでに数年を要するものと予想されます。

現在、脳卒中学会がまず一次脳卒中センター（tPA治療が行える）の認定を行い、脳卒中治療の標準化を目指しております。今後、日本脳神経血管内治療学会専門医が2名以上常勤している二次脳卒中センター（血栓回収治療が行える）の認定を開始する予定です。長野県でも多くの施設で一次及び二次脳卒中センターの認定を受けることが期待されますが、現実的には、専門医が少ないことから血栓回収療法を行える二次脳卒中センターの認定は数年間は数施設しか得られないものと予想されます。

一方で、長野県の地勢的な特徴から、日本脳神経血管内治療学会専門医を常勤医として持たない急性期脳卒中病院が多くあります。それらの施設ではtPA静注治療を行っており（一次脳卒中センター認定可能）、いくつかの施設では日本脳神経血管内治療学会専門医が緊急に出向して血栓回収治療も施行しております。例えば飯田市では、飯田市立病院と近隣の脳神経外科病院が契約して専門医の技術を共有しています。十分な専門医数が確保できない長野県では飯田市のように各医療圏内で血栓回収療法可能な日本脳神経血管内治療学会専門医の技術を共有することで、脳卒中治療の質が都市圏とくらべて立ち遅れないようにしていくことが現実的ではないかと考えております。具体的には、各医療圏内で血栓回収療法可能な日本脳神経血管内治療学会専門医が常勤している施設の情報を共有し、急性期脳卒中への対応方法について検討すべきと考えます。

日本脳神経血管内治療学会専門医が常勤している病院（医療圏）と専門医数（2019/9/3）

長野市民病院（長野）	1名	
長野赤十字病院（長野）	2名	
篠ノ井総合病院（長野）	1名	
上田医療センター（上小）	1名	
佐久医療センター（佐久）	2名	
相澤病院（松本）	1名	
信州大学（松本）	2名	
諏訪赤十字病院（諏訪）	1名	（10月から0名）
伊那中央病院（上伊那）	1名	
昭和伊南病院（上伊那）	1名	
飯田市立病院（飯伊）	1名	

信州大学医学部附属病院 脳血管内治療センター 小山淳一